

尾ノ上の風

第5号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

先週の児童集会は、集会委員会の子どもたちが先生たちに直接取材して作った「先生クイズ」でした。学年部ごとに5～6人の先生がステージの前に立ち、委員会の子どもたちが3つのヒントを出してどの先生かをあてるというクイズですが、これが大変な盛り上がりでした。

1年生は担任の先生が前に立っただけで、大騒ぎですからクイズの答えとなったときはそれはもう大変です。クイズの答えとなった先生は、ステージ前でお得意を披露しました。野球が得意な先生は、キャッチボールをして見せ、水泳が得意な先生は、泳ぐパフォーマンスをして見せました。3年部の石井先生は、高校時代にやっていた弓道の弓を引いて見せてくれましたが、凛とした姿がとても格好よく、「おおっ〜」という声が漏れていました。また、6年部の満枝先生は、剣道の竹刀と防具の面を準備され、剣道クラブの児童と面うちを見せてくださいました。児童が面を打ち込んで、満枝先生が後ろにひっくり返ると大きな拍手が起きました。1年部から7年部までそれぞれ7人の先生が、お得意を披露してくださり、それぞれに子ども達は盛り上がりでした。

尾ノ上小には、このほかに子どもたちの自慢大会という集会もあり、このような楽しい活動を通して子どもたちの気づき、考え、行動する姿が実現される場があります。大切にしていきたいと思えます。



弓を構える石井先生



水泳の学習 始まる

先週プール開きがあり、水泳の学習が始まりました。この日は、5年生のプール開きが行われました。天気もよく水が気持ちよく感じられたようです。まずは子どもたちの安全を第一に、授業に取り組んでいきます。保護者の方もたまにはプールをのぞいてみてください。その際は不審者に間違えられないように、名札の着用をお願いします。また、写真撮影や動画の撮影は厳禁です。

こんにちは！お仕事&授業拝見4 音楽専科 荒木先生編

4年2組での授業を拝見しました。荒木先生の音楽の授業は、安心感があり授業を受ける子どもたちの気持ちが幸せになるような授業でした。先生は、終始、笑顔でゆったりとした余裕をもって接しているので子どもたちが安心して参加できる雰囲気がありました。子どもたちは、先生の言われることに気持ちよいほど反応したり、歌ったりしていました。その都度、先生もプラスのことばでよさや行動を認めていました。また、演奏を全員でさせるとき、転入した児童がついて来られるように、「この学校に来てまだ日がたってないから、ゆっくり行こうね」などといった愛情が感じられる言葉がたくさん発せられていることからあたたかい雰囲気づくりがわかりました。

グループごとに演奏をさせるときは、一つ一つのグループに「いいですね」「上手です」と褒め、「早いところがある」「ちょっと強いところがある、もう一回」と言うような場合は、短く指示して挑戦させて、しっかりと褒めていました。どうしても強く吹いてしまう子には、その子どもに直接指導するのではなく、演奏を教師が大げさに口で言いながら見せて気づかせていました。それを見て子どもたちは笑いながら、気をつけてやってみようと言う楽しい雰囲気で取り組んでいました。

最後の活動で、自分で選んだ部分のリズム打ちに挑戦させられ記録をつけている途中でチャイムがなると、潔くすぱっと終わって授業を終えられました。音楽を楽しんだ授業の後の子どもたちの表情がとてもよかったです。



荒木 智子(あらきともこ)先生 尾ノ上小1年目（日吉小学校から異動）

【荒木先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

最初はピアノの先生になりたかったのですが、1対1ではなく、グループや集団で音楽をつくりあげてみたいと思うようになったからです。それは、小学校のときの音楽の先生にあこがれ、合唱部にも入ったのが思うようになったきっかけです。